



さの としお
佐野 寿夫 議員
(公明会)

当市の児童虐待とひきこもり中高年者8050問題の現状と支援体制について

部長 市の家庭児童相談室に、児童虐待かもしれないと通報や相談のあった件数は、平成30年度は87件で約30数件増加している。

問 家庭児童相談室の対応状況と連携体制は。

部長 虐待の通報を受けた後、原則として48時間以内に直接子どもの様子を確認することを遵守している。また、富士宮市要保護児童対策地域協議会で検討し、その児童や家庭に合った支援につながるよう取り組んでいる。

問 ひきこもり児童から8050問題である中高年者のひきこもりの現状と相談窓口体制は。

部長 不登校に関する小・中学生の相談件数は1475件、義務教育修了から39歳までのニート、ひきこもりの相談件数は43件である。孤立させ

ないための制度を周知する。

食品ロス削減推進法の成立を受けて、当市として食品ロスを生まない機運をさらに高めていくことについて

部長 「ふじのみや3010運動宴会の心得」を環境衛生自治推進協会の協力のもと、特に宴会シーズンには重点取り組みとして啓発する。

問 市民運動として推進することについて。

部長 ごみダイエットプロジェクトの中で、市民、事業者、行政が一丸となり、市民運動として食品ロス削減の取り組みを展開している。毎月第3日曜日の食卓の日に合わせて冷蔵庫クリーンアップデーを設けることを市民に周知する。



さの かずひこ
佐野 和彦 議員
(富岳会)

選挙と投票率向上を考える

問 平成最後の選挙では、投票率向上に新しい取り組みは行われたか。

選挙管理委員会事務局長 これまでと同じ方法で、街頭啓発に大型商業施設を1カ所増やし、計4施設で行った。

問 投票が増えそうな場所に、期日前投票所を増やせないか。

局長 場所や経費の問題、立会人など従事者の配置を考えると、現状の市役所、上井出張所、芝川会館の3カ所を継続していきたい。

問 高齢者が増え、投票し易くするために、移動投票所や移動投票車など考えられないか。

局長 期日前投票所の増設と同様に、様々な問題があり、実施は困難である。

要望 私たち立候補者も、もっと努力をしなければ

ならないが、選挙は莫大な予算がかかっており投票率向上を考えなければならない。1人でも多くの投票者を増やすため、できない理由ではなく、どうしたらできるかを考えてほしい。

人口減少と北部地区、芝川地区の未来

問 今、どの位の自治会が消滅の危機にあるか。

部長 市内には127の自治会があり、5年前と比較すると、人口が増えている区が27区、減少している区が98区、増減なしが1区という状況で、約8割の自治会で人口が減少している。市では、よりよい自治会運営を役員と共に考えていくように対応している。

固定資産と、土地の管理者の行方を考える

問 共有名義の土地の課税対象者、納税通知書の発送先の決定方法について伺う。

部長 地方税法の定めにより、共有名義の土地については、共有代表者に納税通知書を発送している。代表者の決定は、市内に居住している方、持ち分の多い方、当初から所有している方を優先する事としている。